

土木の日シンポジウム2021

# グリーンインフラ と

# 市民普請

～自然のなかでいきる技術のあり方～

自然の機能を活かしたグリーンインフラに注目が集まっています。グリーンインフラの鍵は、自然を支配し利用するのではなく、自然を受け入れ地域にふさわしい技術にしつらえることです。しかし、自然が有する材質としてのばらつきや、あえて小さな被害を許すような不確かさを有するグリーンインフラの考え方は、必ずしも十分に受け入れられていません。公共施設は一定の機能を保証することが前提で、規格化や技術基準を整備してきたことが、今の社会の安全安心を作ってきたからです。地域の持続可能性や魅力を高めるグリーンインフラをどのように使いこなしていけるでしょうか？

一方、市民普請は行政の枠組みから離れた自律的な暮らしの営みです。そのためグリーンインフラの普及に貢献する可能性を秘めています。本シンポジウムでは、自然や地域を上手く活かしたグリーンインフラ技術をとりあげ、市民普請が持つ“自然のなかでいきる新しい技術体系”の価値を探り、社会に実装する方法を考えたいと思います。

## 登壇者

- 真田純子 東京工業大学  
松木洋忠 土木研究所  
瀧健太郎 滋賀県立大学  
徳永達己 拓殖大学  
設楽知弘 毛利建築設計事務所 [事前収録]  
中村圭吾 土木研究所

参加費

無料



石積みの棚田（山梨県南アルプス市中野地区）

2021年

11月14日(日)

13時00分～15時30分

オンライン開催  
(Zoomウェビナー)



お申込みは  
土木学会HPから

# 土木の日シンポジウム2021

## グリーンインフラと市民普請「自然のなかでいきる技術のあり方」

### プログラム

13:00～ 開会挨拶 廣瀬昌由（国土交通省大臣官房 技術審議官）  
土木学会 会長挨拶 谷口博昭（土木学会 会長）

13:10～ イントロダクション 「市民普請について～これまでの振り返り～」

13:15～ 基調講演



「自然のなかでいきる技術のあり方を問う」

真田純子（東京工業大学）

13:45～ 事例紹介



「現地材料と地元技術で現場土木」

松木洋忠（土木研究所）



「“水辺の小さな自然再生”と支える仕組み」

瀧健太郎（滋賀県立大学）



「地産地消型の道路舗装：エチオピアの石畳舗装」

徳永達己（拓殖大学）

設楽知弘（毛利建築設計事務所）〔事前収録〕

14:40～ パネルディスカッション「グリーンインフラ推進のための市民普請の役割」



コーディネーター：中村圭吾（土木研究所）

パネリスト：真田純子/松木洋忠/瀧健太郎/徳永達己

15:30 閉会挨拶 塚田幸広（土木学会 専務理事）